

PTA

社会教育

民生・児童委員

地方議会

「たのたのじゅく」千葉・松戸市
代表者の新井秀樹さん

実験や出張授業の現場から提言

千葉県松戸市内の民家に設けられた「たのたのじゅく」は、中学生、高校生世代のボランティアの力も借りて理科の実験やものづくりを取り込んだ「楽しい授業」を子どもたちに経験してもらおうと、同市内外で活動している。小学校の「放課後子ども教室」や学童保育、公民館事業などに招かれ、仮説実験授業を基にした出張講座を展開。代表者の新井秀樹さんは、長く不登校問題とかかわってきた経験から、「不登校問題改善の力ぎは、楽しい授業を増やすことでは」と提案している。

自主夜間中学で経験重ね

同県柏市立酒井根西小 声が掛かるらしい。学校で月に1回、土曜日 発足は平成15年。学生に開かれる実験教室。新時代から不登校状態の子井さんが講師を務める子どもと向き合う中、楽しくなっていて、5年がたった。 「仮説実験授業」と呼ばれる手法に出合う。実験

水を入れた水槽にコップを沈め、底を上にしたまま水の上に引き上げて、子どもたちの関心を引き出す工夫を全国の教員が追究していた。 新井さんもその一員として仮説実験授業を学び、ボランティアとして、大人、子どもに教えるようになった。この間、ト

「子どもの居場所づくり」が各地で行われるようになったところ、同小学校の母親グループから声が掛かった。今も、同省の「放課後子ども教室」に位置付けを変えて教室は続く。 土曜日の開催だから同校の教員に負担は掛けられない。かといって、遊ばせているだけでは子どもはあまり集まらない。そこで、こうした実験やものづくりの場を提供する「たのたのじゅく」に

「たのたのじゅく」に 転手の仕事を夜間に変わってほしいと勤務先で打診されたこと。さまざまなかつた人たちを対象に、



子どもたちに実験を披露する新井さん(右)

子どもたちに実験を披露する新井さん(右)

しにも定期的に参加している。 その一方で、「仮説実験授業」に関する勉強会を開催。近隣の学校の教員に声を掛け、月に1回程度、授業事例を報告し合い、話し合うなどの活動を続けている。 「誰かに話を聞いてほしかったのでしょう」と新井さん。中・高生世代にとっても貴重な居場所となってきた。今夏も、出張授業のたびに、多いと4、5人の中・高生ボランティアが新井さんに同行した。 特別な宣伝はしない。地域の無料新聞など、メディアの取材は受ける。中学生・高校生世代

中・高生世代の貴重な居場所に

「たのたのじゅく」には教育的な側面がもう一つ。中学生・高校生世代が広がり、今は「もっとスタッフ」が欲しい」と(新井さん)という。 そんな新井さん、学校現場への意見を求めた。 「不登校問題への対応は状況によってさまざま考えられますが、楽しい授業を指すことが基本ではないでしょうか。人

放課後子ども教室で講座 高齢者に認知症対策授業

ボランティアの市民が松戸市内で開いている「自主夜間中学」で教えていた新井さんは、退職する道を選んだ。雇用保険を受給しながら知人のつてをたどって、JR北松戸駅そばに活動場所を確保。こうして、現在の「たのたのじゅく」の開設にこぎ着けた。 基本的な活動は実験、ものづくりの出張講座。一定の謝礼を出してもらった。学校が休みの日、子どもたちに学びの場を提

供しようという「放課後の子ども教室」を始め、民間企業の催しに呼ばれることもある。 最近では、介護予防教室の際、中・高生ボランティアが補助を担当。松戸市が設置した「市民活動サポートセンター」が例年、10〜20歳代の世代を対象にボランティア希望者を募集し、保育所などで受け入れ先との間で橋渡しをしている。参加者

たのたのじゅく」もそうしたボランティア活動の受け入れ先の一つ。常設の活動場所を持つ「たのたのじゅく」には、通常のボランティア活動の日以外にも中・高生がやって来て思い思いの時間を過ごしてきた。 「たのたのじゅく」もそうしたボランティア活動の受け入れ先の一つ。常設の活動場所を持つ「たのたのじゅく」には、通常のボランティア活動の日以外にも中・高生がやって来て思い思いの時間を過ごしてきた。

中・高生ボランティアも活動

たのたのじゅく」もそうしたボランティア活動の受け入れ先の一つ。常設の活動場所を持つ「たのたのじゅく」には、通常のボランティア活動の日以外にも中・高生がやって来て思い思いの時間を過ごしてきた。